



Part 1 (新着資料から)

BOOK 『光文社 古典新訳文庫』

(光文社)

私が学生のころは、外国の古典の翻訳出版が盛んで、新潮文庫や岩波文庫といった廉価本で多くの古典が手に入りました。私は小遣いやアルバイトで得たお金を貯めては、それらの文庫本を本屋に買いあさりについては、異国の古典の森をさまようという、今から思えばかけがえのない至福の時を過ごしていました。『赤と黒』(スタンダール)や『谷間の百合』(バルザック)を読んだときの感動。ドストエフスキーやジッドやスタインバックとの出会い。シェイクスピアの言葉の森。ヘッセやシュトルムの人生の悲哀。思い出は尽きません。しかし、皮肉にも研究者の道を歩み始め、また世の中も変化して、そのような趨勢や習慣もいつの間にか廃れ、寂しい思いをし

ていました。そんな中、光文社から「古典新訳文庫」なるシリーズが始まりました。「いま、息をしている言葉で、もう一度古典を」とのキャッチ・フレーズのもとに、海外の名作・古典を「新訳」で紹介するというものです。文学だけでなく、哲学や思想など、人文・社会科学の著作もラインナップされるとのことなので、これからの企画が楽しみです。今までに出版された作品の中から入門書としてのお勧めは、『初恋』『赤と黒』『武器をさらば』『野生の呼び声』でしょうか。他に『自由論』、シェイクスピアは全作楽しめます。

松家 次朗 記

DVD 『和漢医薬学の基礎知識』

(医学映像教育センター 2007 全3巻)

近代西洋医学を相補する医学として伝統医学があるが、日本では漢方医学が普及しています。その背景には処方される生薬の品質が日本薬局方などに記載されているとおり規格化され品質が標準化されてきています。さらにその効果が科学的に証明されつつあります。

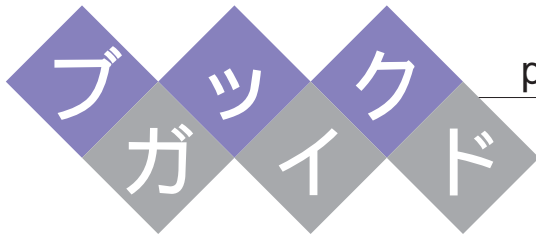
Colon26-L5 結腸癌の肝転移モデルマウスの十全大補湯の有効性、アセトンとエーテル塗布による乾燥性皮膚痒症モデルマウスの温清飲の有効性など。第3巻では漢方医学の基礎理論と臨床を講義し、最も適する漢方方剤を選択する重要性が述べられています。すなわち漢方医学の基礎理論として陰陽虚実五臓論および気血水、つづいて臨床では四診(望診、聞診、問診、切診)の情報による診断、さらに症例を紹介しています。このように3巻に分かれています。どの巻から観始めても良いです。

第1巻から漢方薬と生薬の基礎知識が得られます。すなわち中国から伝来された薬(生薬)が日本で発展した歴史、生薬の基原植物ならびに供給の現状、生薬の品質と成分、漢方方剤について紹介されています。第2巻では漢方薬の効果と機序について検証した例が紹介されています。卵巣摘出による更年期障害のモデルラットの当归芍薬散の有効性、

川西 和子 記

もくじ CONTENTS

ブックガイド(新着資料から)松家次朗・川西和子.....1	読書マラソンに参加して(参加者感想).....6
ブックガイドpart2(専門分野別)吉野 伸.....2	マイライブラリ・カテゴリ検索・携帯版OPAC.....7
図書館長に就任して 田中研治.....3	薬剤師のためのDI資料(22)長嶺幸子.....8
世界の図書館を訪ねて 上田昌史.....3	2008年度学術雑誌について.....8
受入図書から.....4~5	お知らせ.....8
読書マラソンあれこれ(統計).....6	


 part 2 (専門分野別)
BOOK GUIDE

“薬理学の本”

 吉野 伸
(薬理学研究室 教授)


薬理学は、薬物と生体との相互作用について研究する学問であるが、薬物がからだの中の作用点（受容体、酵素など）とどのように結合し、どのような機序でその作用を発揮するのかについて研究する薬物動力学（pharmacodynamics）と、薬の吸収、代謝、体内分布、排泄などについて研究する薬物動態学（pharmacokinetics）から成る。大雑把だが、薬物動力学は「薬物が生体に対して何をするか」、薬物動態学は「生体が薬物に対して何をするか」について研究する科学と言える。一般に大学の薬理学の講義では薬物動力学に力点が置かれている。薬理学に関する本としては、比較的くだけて書かれた読本から、講義に用いるテキスト、薬剤師国家試験をはじめとする各種国家試験を視野にいれた解説書、さらに国際的に権威のあるものまで多数ある。それぞれには一長一短があるが、代表的なものを紹介したい。

気軽に読め、薬理学への関心を引き出すことを目的として書かれた本として、岡部 進著「楽しい薬理学・セレンディピティ」（南山堂）がある。近年、分子生物学や分子遺伝学の発展に伴い、薬物と生体との相互作用のメカニズムが詳細に明らかにされた。たとえば、現在薬物受容体の構造からシグナル伝達機構まで解明されているため、学生にとって薬理学は難解なものになりつつある。このことを踏まえ、著者は長年薬理学教育に携わる者として薬理学を学ぶ楽しさを伝えようとしている。例として、狭心症治療薬としてニトログリセリンやβ遮断薬があるが、著者はこれら薬物の発見に至るまでの過程、さらには発見者の栄光と悲劇等について興味深く紹介している。

薬理学の授業に用いられているテキストとしては、数多く出版されている。このうち、仮家公夫らによる著書「疾患別薬理学」（廣川書店）は薬学生を対象とし、「医薬品は疾患の治療、予防に用いるもの」との観点から、生理・生化学的知識を背景にした病態の概念から記述されている。薬学生の医療現場での「実務実習」にも大いに役立つものと思われる。本学での薬理学講義では本書をテキストとして用いている。その他、久保田和彦らによる著書「薬理学テキスト」（廣川書店）、田中千賀子、加藤隆一編集「New 薬理学」（南江堂）な

どがテキストとして知られている。

薬剤師国家試験を視野に入れた本としては、「薬剤師国家試験対策参考書：医療薬学Ⅱ」（薬学ゼミナール）、「薬学必修講座：医療薬学Ⅰ 医薬品の作用」（評言社）、「薬剤師国家試験対策：医療薬学Ⅰ 薬理学、病態学、臨床化学」（日本医薬アカデミー）などがあるが、これらは薬理学全般を上手に要約・図表化しており、知識の整理に役立つ。また過去に出題された国家試験問題を取り入れた演習問題、またその解説も比較的充実している。これらは、それぞれ青本、白本、黒本として薬学生に広く愛用されている。

世界的な薬理学指南書とされている L.S. Goodman, A. Gilman 著「グッドマン・ギルマン薬理学」（廣川書店）の初版は 1940 年に発行されたが、その後改訂を繰り返し、現在第 9 版に至っている。これまで一貫して、本書の三原則、すなわち 1) 薬理学と他の医科学領域との関連を述べること、2) 医学の進歩に応じて各種医薬品の作用とその用途を再評価すること、3) 治療学における薬物動力学の応用性を重視すること、が守られている。長年の伝統に支えられている本書は、上下 2 巻約 2500 ページからなる大作で、医・歯・薬・看護学領域の学生のみならず研究者にとっても座右の書としての地位を保っている。

このように薬理学の本には様々なものがあるが、薬学生にとってこれらの本の上手な利用法としては、まず講義用テキストを基本にして学ぶ。薬剤師国家試験用参考書は知識の整理と確認に、「グッドマン・ギルマン薬理学」は講義で聞いた内容をもっと詳細に知りたい時に利用するのがいい。また、薬理学に興味がない学生は、上記の「楽しい薬理学・セレンディピティ」を読むと薬理学を学ぶ楽しさやその重要性が分かるのではないかと思う。

実際に医療の現場で仕事をしておられる薬剤師の方々に会うと、「薬理学の知識は日常業務に（最も）必要」と口をそろえて話される。また、MR、研究・開発従事者からも業務における薬理学の知識の重要性を聞く機会が多い。それぞれ特徴をもった薬理学の本は多く存在するので、それぞれの利点を生かし、ぜひ活用してほしい。

図書館長に就任して



図書館長 田中 研治
(英語第1研究室 教授)

味村前館長の後を受けて、4月から図書館長に就任いたしました。本学図書館の特徴は、薬系大学図書館の中でも非常に強力に多様な情報センター機能を誇ることです。これは学内教職員のご支援、歴代館長や館員、運営委員のご尽力の賜物です。この高度で良質な機能をさらに発展させ、教育・研究に資する図書館であり続けるよう、微力ながら業務に取り組む所存です。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

図書館機能の充実のため、近年図書館システムのバージョンアップ(所蔵検索機能の強化やマイライブラリ機能など)を始め、利用者の読書マラソンなど、様々な取り組みが鋭意なされて来ました。しかし一方で今後の課題も多く残されています。

その一つが、書庫スペースの確保問題です。狭い書庫に保管する資料、蔵書量には当然ながら限界があります。幅広く

資料や蔵書を収集することは図書館最大の任務ですが、同時にその保管・廃棄について方針を決めるべき時期に来ているということです。特に多くの学術雑誌がそうです。これらは最近冊子体から電子媒体へ移行中ですが、館内にある雑誌の保管・廃棄は最優先して検討を迫られている課題です。

また、以前から多くの学生の要望として、自習室の増設がありますが、これは新教育棟の建築で、ある程度解消が見込めそうです。

私が現在関心をもつのは、海外での先進的な図書館機能のあり方です。例えば、シンガポールは図書館ビジョンを国家戦略として指針化済みです。教育力第1位の国フィンランドもITを中心的な国家戦略とし、国民の情報格差の解消を担っています。規模は違いますが、本学図書館の充実を目指し、海外からの有用な情報の吸収と活用努力をしたいと思います。

世界の図書館を訪ねて 15

ピッツバーグ大学の図書館

薬品化学研究室 助教 上田 昌史

ピッツバーグは、アメリカ合衆国ペンシルバニア州の西に位置する地方都市であり、かつては鉄鋼の街(アイアンシティ)として知られていました。その後、鉄鋼産業は衰退し、現在ではハイテクと大学の街として生まれ変わり、2007年には「全米で最も住みやすい街」に選ばれました。私が留学しているピッツバーグ大学は、多くの大学が点在する文教地区であるオークランド地区に位置し、約34000人の学生が在籍しています。ピッツバーグ大学には、大小あわせて17の図書館があり、私が利用しているのはDepartment of Chemistryの図書館です。Department of Chemistryの図書館は、本学の図書館よりも規模が小さく、研究に必要な論文はすべて電子化されているため、私はあまり利用していません。そこで本稿では、ピッツバーグ大学のメインの図書館であるHillman Libraryについて紹介します。Hillman Libraryは1968年に開館した大学内で最も大きな図書館であり、主に人文科学や社会科学に関する蔵書が190万冊もあります。また、1階にはコンピュータールームがあり、文献や蔵書の検索、レポートの作成など自由に使用できるコンピューター



Hillman Libraryの外観

が100台あります。定期試験前は24時間開館しており、徹夜で図書館にこもって勉強する学生もいるそうです。この図書館は2007年3月まで約23年間、1階のメインの入口が閉じられたままだったそうです。それは、あまりにも高価すぎるため使用するのが「もったいない」というのが理由だそうです。しかし、2007年3月に再びその扉が開けられ、現在では1階の入口から入館することができるようになっています。また、天気の良い日には、学生が芝生の上で寝転びながら、コーラとハンバーガーを横におき読書しているというアメリカらしい光景もよく見かけます。

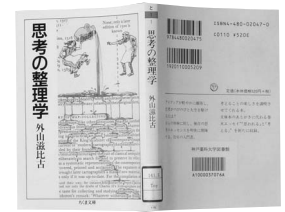
書名	著(編)者名	出版社
自分の体で実験したい	レスリー・デンディ	紀伊國屋書店
困った状況も切り抜ける医師・科学者の英会話	Ann M.Körner	羊土社
数をめぐる50のミステリー	ジョージ・G・スピロ	青土社
固定化触媒のルネッサンス	小林修他監修	シーエムシー出版
生命科学のための機器分析実験ハンドブック	西村善文	羊土社
演習有機反応その解き方と考え方	東郷秀雄	講談社
有機化学美術館へようこそ	佐藤健太郎	技術評論社
地球温暖化の科学	北海道大学大学院環境科学院	北海道大学出版会
分子生物学の軌跡	野島博	化学同人
コア講義分子生物学	田村隆明	裳華房
原理からよくわかるリアルタイムPCR実験ガイド	北條浩彦	羊土社
分子遺伝学入門	東江昭夫	裳華房
新しいIDNAチップの科学と応用	関根光雄	講談社
生物がつくる「体外」構造	J・スコット・ターナー	みずず書房
医師の死角、患者の死角	西寺桂子	現代医学出版
薬学生のための漢方医薬学	山田陽城他	南江堂
医療通訳入門	連利博監修	松柏社
マクマリー生化学反応機構	John McMurry	東京化学同人
分子間相互作用解析ハンドブック	磯辺俊明他	羊土社
イソフラボンとシグナル伝達	小河原宏	廣川書店
毒と薬の科学	船山信次	朝倉書店
病気を起こす遺伝子	フィリップ R.レイリー	東京化学同人
薬科微生物学 第5版	加藤文男他	丸善
薬系免疫学	植田正, 前仲勝実	南江堂
ファーマコセラピー 上・下	Joseph T.Dipiro他	ブレーン出版
薬剤師・薬学生のための臨床医学テキスト	大野勲他	薬事日報社
メタボリック症候群と栄養	横越英彦	幸書房
高齢者医療ハンドブック	酒井章	日経メディカル開発
ポストゲノム時代のタンパク質科学	Arthur M. Lesk	化学同人
精神科のくすりを語ろう	熊木徹夫	日本評論社
感染症ワールド 第2版	町田和彦	早稲田大学出版部
医療事故の責任	神谷恵子	毎日コミュニケーションズ
日本の医療制度討論	マーク A. コルビー	薬事日報社
禁煙学	日本禁煙学会	南山堂
告発・電磁波公害	松本健造	緑風出版
変化する環境と健康	佐々木胤則	三共出版
サプリメント事典 第2版	蒲原聖可	平凡社
くすりの発明・発見史	岡部進	南山堂
法律からわかる薬剤師の仕事 改訂版	白神誠	じほう
世界の医薬品産業	吉森賢	東京大学出版会
登録販売者になろう	医薬品販売制度研究会	じほう
調剤依存からの脱却をめざした地域薬局と経営	地域薬局経営研究会	薬事日報社
創薬論	村川武雄	京都大学学術出版会
今日から役立つ剤形別くすりの知識	大谷道輝	医学書院
薬を育てる薬を学ぶ	澤田康文	東京大学出版会
創薬をめざす有機合成戦略	穴戸宏造他	化学同人
GCP治験とモニタリングの基礎知識 第2版	西川隆他	薬事日報社
マイクロドーズ臨床試験	杉山雄一他	じほう
医薬品添加物ハンドブック 改訂	日本医薬品添加剤協会訳	薬事日報社
修道院の薬草箱	ヨハネス・G.マイヤー他	フレグランスジャーナル社 (化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

『思考の整理学』

外山 滋比古著 ちくま文庫(筑摩書房)

学校は「グライダー人間」の訓練所である。グライダー能力によって習得した基本的な知識を結びつけることで新しいものを生む「飛行機人間」になれる。コンピュータという優秀なグライダー能力の持ち主が現れ、自分で飛べない人間はコンピュータに仕事を奪われてしまう。生き残るためには、グライダーにエンジンを搭載することである。そのためにはどうすべきかを考えなければいけない。考えることの楽しさを満喫させてくれる本である。

(S.M.)

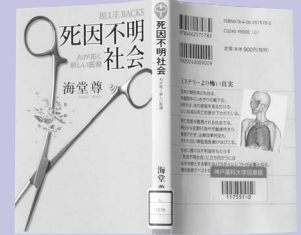


『死因不明社会 Ai が拓く新しい医療』

海堂 尊 講談社(ブルーバックス)

死因を解明する検査は解剖であり、その知見を臨床医学にフィードバックして医学が進歩してきた。しかし、現在、日本の解剖率は先進諸国中最低レベルの2%台で、大げさな言い方をすれば98%の死者は死因不明といえる。「チーム・パスタの栄光」の謎解きにも使われたAI(Autopsy imaging)は死亡時における画像診断技術であり、予防や治療に使われる画像診断とAiシステムの確立により、医療崩壊が少しでもくい止められることを願う。

(K)

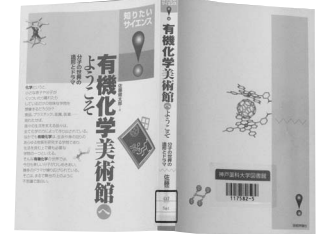


『有機化学美術館へようこそ』

佐藤 健太郎著 技術評論社

分子の美しさに焦点を当てた一冊です。この本には、美しく面白い分子をはじめ、化学者達のドラマとエピソード、最先端のナノテクノロジー、「博士の愛した構造式」など幅広い話題が紹介されています。難しい化学構造式ではなく立体的なCGによって美しい分子の姿が数多く掲載されており、わかりやすい内容であるため読みやすい。この本を読めばきっと目に見えない小さな分子達が織りなす不思議な世界に魅了されること間違いなし!

(N.T.)



『ワーキングプア』日本を蝕む病

NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班 編 ポプラ社

近頃よく耳にする「ワーキングプア」という言葉に惹かれ、手に取った。本書は普通の生活から一転、真面目に働いているのに生活保護水準以下の生活を強いられる状況に陥った人々を紹介している。これは、単に「自己責任」だけで片付けられる問題ではなく、日本の経済構造にもワーキングプア増大の要因があるという。パブル崩壊後も「経済大国」のイメージが根強いが、ひそかに新たな貧困問題が進行していると警鐘を鳴らしている。

(Y)



『亜玖夢博士の経済入門』

橘 玲著 文藝春秋

あらゆる学問を究めた化物(亜玖夢博士)が己の学識でもって困れる人々を救済しようと決意する。世事に疎い博士が打ち出す解決策は、当然とんでもない結果を弾き出し…。それでも最後に収支が上手く行くのは、人間に限りない欲があるから。学びたいという気持ちも人間の一つの欲だったと実感する本書には、学びに対する純粋で誠実な姿があります。とか何とか言いつつ軽く読みとばせる学習帳なので、あのころに戻った気分どうぞ。

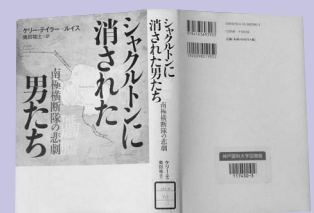
(S.Y.)



『シャクルトンに消された男たち：南極横断隊の悲劇』ケリー・テイラー＝ルイス著 文藝春秋

20世紀初頭の南極探検隊は国家の威信と個人の名誉がかかっていた。本隊のリーダーから押し付けられた無謀な命令を完遂した支援隊チームの実話。彼の著作『エンデュランス号漂流(奇跡の生還)』からは消し去られ、ヨーロッパでの『八月の砲声』の裏側で起きた、知恵と勇気と責任感を持った男たちをたどった行動記録。他人の欠点を認めて協調し、任務のために自己犠牲するとはどういうことなのか、について一読の価値有り!

(H)



読書マラソンあれこれ

読書マラソン統計

生協との共催で2007年4月から開始した「読書マラソン」参加者から12月までに878枚のPOPカードが提出されました。

提出されたPOPカードの月・学年別提出枚数と書名別提出枚数をまとめました。

グラフから試験期間、夏休み期間以外はコンスタントに、また、2年生から最も多くのPOPカードが提出されていることがわかります。表からは映画化された本がよく読まれていることがわかります。

今年度も多くの皆様が本を読み、その感動をPOPカードに記入して提出していただくことを期待しています。POPカードは図書館入口の指示板や、図書館ホームページから見るができます。

グラフ 月・学年別POPカード提出枚数

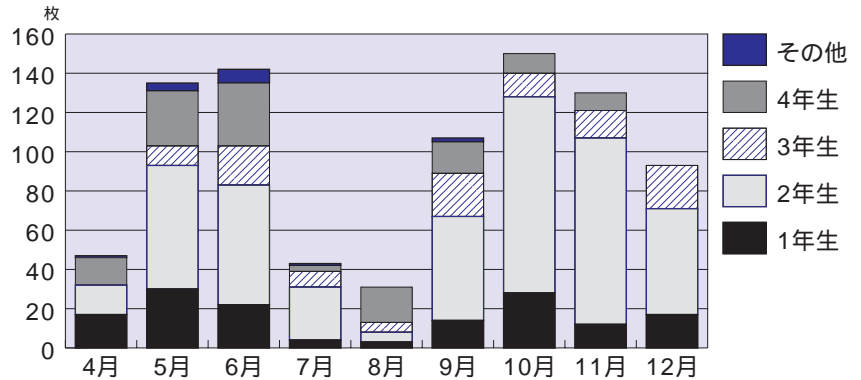


表 書名別ポップカード提出枚数ベスト3

順位	書名	著者	提出枚数
1	手紙	東野 圭吾	8
2	眉山	さだ まさし	7
3	夜は短し歩けよ乙女	森見 登美彦	5
3	変身	東野 圭吾	5
3	博士の愛した数式	小川 洋子	5
3	世界の日本人ジョーク集	早坂 隆	5

読書マラソンに参加して

私は、昔は本を読むのがとても苦手だったのですが、大学に入って友人の影響を受け読み始めました。その後、読書マラソンに出会い参加してみました。本は、良いことばかりで学ぶことがたくさんあることに気づきました。心の持ち方、物事の考え方が本を読むことで私自身、変わったように思います。読書マラソンの良いところは、ペンネームが使えて、10冊読む毎に生協の商品券をもらえるところです。また、他の人の感想文が掲示されているので、はりあいもずいぶんありました。薬学部は、文系の学部と違い本を読む機会は少ないと思うので、本を読むきっかけを与えてくれる読書マラソンは素晴らしいと思います。今はまだ私が読んだ本は50冊に満たないので、在学中に百冊読むのを目指したいです。趣味を読書としてこれから就活を頑張っていきます！

(ペンネーム：コンペイトウ)

クラブの後輩が始めるのを見たのをきっかけに自分も始めてみました。10冊本を読めば生協の500円券がもらえるという事で、最初のうちはお小遣い稼ぎ感覚で感想カードを書きためていました。しかし、やっていくうちに本を読む事において別の楽しみを見出すようになりました。カードに書き留める事によってその本の内容をもう少し深くふり返って考えることができ、読んだ本の冊数をカウントする事で自分の読書の積み重ねを実感する事ができます。もちろん普段から本を読む人のみならずこれを機にたくさん本を読もうとしている人にとってもすごく面白いものだと思うし、自分なりの楽しみを見つけ出せると思います。多勢の学生たちが色々な本を読んで、それを形にして示すのが盛んになれば大学生活における新しい豊かなコミュニケーションが広がると思います。

(ペンネーム：むさし)

マイライブラリ・カテゴリ検索・携帯版OPAC

図書館ホームページから図書館資料検索(OPAC)をクリックして本学にどんな資料があるかを検索したことがありますか？
思いのほか、色々な図書や雑誌が見つかりますので是非、活

用してください。今回は「検索語を入力しての検索」以外の新しい機能《マイライブラリ・カテゴリ検索・携帯版OPAC》について紹介します。

マイライブラリ

「マイライブラリ」とは利用者専用(ポータルサイト)のページです。パスワードが必要です(詳細は3階カウンターでご確認ください)。

マイライブラリに入るには

図書館ホームページの「マイライブラリ」、または図書館資料検索(OPAC)画面の右上「マイライブラリ」をクリックし、利用者IDとパスワードを入力します。

マイライブラリでできること

- お知らせ：図書館からの連絡事項、延滞などを表示
- 新着情報：条件を指定しておくとその条件に当てはまる新着資料があったときに表示
- 入手待ちの資料：資料の予約、複写依頼している資料などの表示
- 借用中の資料：借用中の資料件数を表示
- マイフォルダ：ブックマークした情報を保存するために作成したフォルダが表示されます。「マイフォルダ管理」より、フォルダの編集・削除が可能です。
- 操作メニュー
- 依頼：学部学生は図書の購入依頼のみができます。購入可否、回答は、図書館 4 F カウンターのファイルで行います。
- 学部学生以外の皆様は文献の複写・資料の借用・図書の購入依頼ができます。
- 設定変更：パスワードの変更ができます。

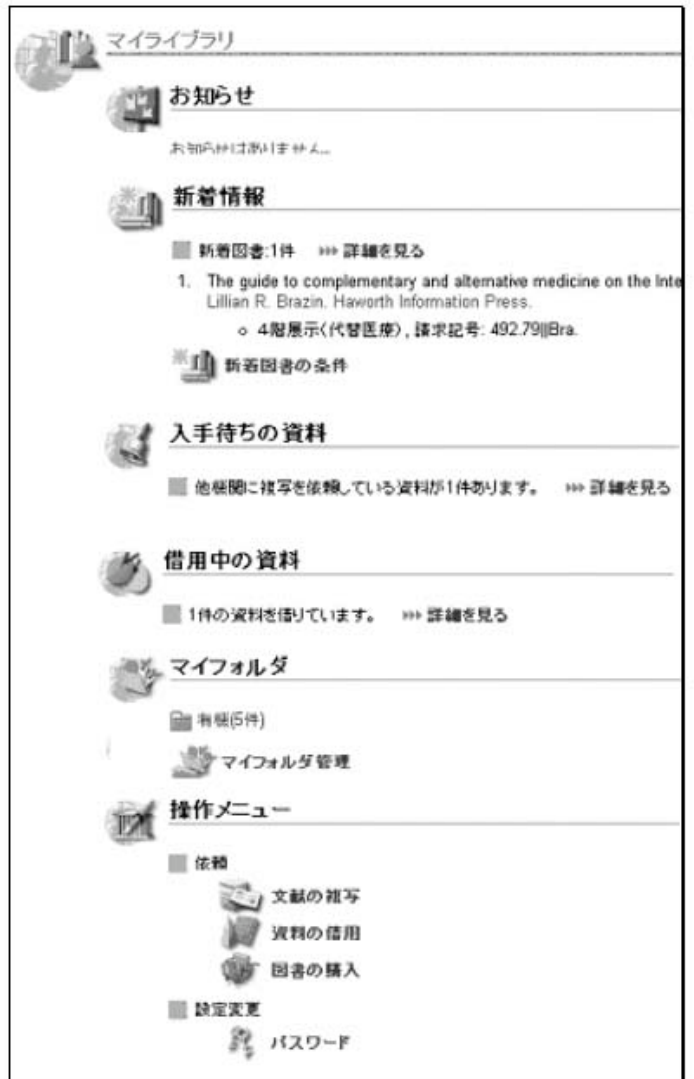
ログアウト

マイライブラリの利用を終了するときは、必ずログアウトしてください。

カテゴリ検索

図書館資料検索(OPAC)画面の右上「カテゴリ検索」をクリックするとカテゴリ検索画面になります。検索語を入力しないで、図書館が分類したリストにより、欲しい情報に到達することができます。現在は以下のリストを掲載しています。

- テーマ展示
- 指定参考書 - 配当期別
- 教員別(五十音順)指定参考書
- 新書など
- DVD



携帯版 OPAC

携帯電話から図書/雑誌検索、本人貸出状況及び予約状況の確認ができます。アドレスは以下の通りです。

<http://libop.kobepharma-u.ac.jp/limedio/i/index.html>
図書館ホームページに説明がありますのでご覧ください。

薬剤師のためのDI資料 22

『高齢者ケア薬剤管理マニュアル ADLと薬剤』

日本薬剤師会 編著
薬事日報社 2006

少子・高齢社会が進み、疾病構造の変化、療養の長期化や後期高齢者(75歳以上)の増加など医療環境が変化してきている。高齢者は、複数の慢性疾患を抱えている場合がほとんどで、服用している薬も多く、また加齢による臓器機能の低下、胃液pHの上昇、体内水分量の減少、脂肪含有率の増加など高齢者に特有の臨床上の特徴があり、その上個人差も大きく薬剤使用上、注意をしなければならない。また要介護状態の人も増え、特にそのほとんどが療養に際し、薬剤を使用しているため、薬剤によるADL(日常生活動作)やQOLへの影響について注意しなければならない。

高齢者における薬剤の管理・指導においては、薬剤の副

作用・相互作用が患者のADL、即ち排泄機能、食事の摂取、動作・運動機能、感覚機能(視力・聴力等)、精神機能等の低下に影響を与え得ることを考慮して実施することが必要になってくる。

本書は、総論では高齢者疾患の特徴や薬物療法における注意点などが述べられている。各論では高齢者において特に注意すべきADLに影響を及ぼす副作用20項目が取り上げられ、項目毎にADLに影響を及ぼす可能性のある薬剤や症例概要、予防法、対処法等が書かれている。薬剤管理に関する療養指導業務や薬局等の日常業務にも役立つ内容になっている。

長嶺 幸子 記

2008年度学術雑誌について

下記の学術雑誌に異動がありました。

洋雑誌の新規購読(電子ジャーナルのみ)

Chemistry & Physics of Lipids.
Developmental Biology.
Journal of Hepatology.

電子ジャーナルのみに移行

Analytical Letters.
Australian Journal of Chemistry.
Biochemical Journal.
Biochemical Pharmacology.

Blood: Journal of the American Society of Hematology.
Clinical Pharmacology and Therapeutics.
Journal of Cell Science.
Journal of Immunology.
Journal of Molecular Biology.
Journal of Pharmaceutical Sciences.
Journal of Pharmacy and Pharmacology.
Pharmacological Research.

和雑誌の購読中止
触媒

お知らせ

図書館長が交替しました。新しい体制のもとで、さらに“使いやすい図書館”になるようにサービスの向上を目指します。

本年3月に蔵書点検と書架整理を行いました。資料の利便性を向上させるために実施しています。

図書館システムの更新、試運転が終了して、「携帯電話」から図書/雑誌検索などができるようになりました。利用方法などわからないことがあれば3階カウンターでおたずねください。

今後の薬剤師には「知識(アタマ)・技能(ウデ)・態度(マナー)」の3要件が求められる、と聞いています。図書館の利用も「正しい態度」でお願いします。

飲食や席取り等、『他の利用者への迷惑行為』は慎んでください。

お問い合わせ、ご質問はカウンターまたは館員までお気軽にどうぞ。

神戸薬科大学図書館ニュース No.39

編集・発行 神戸薬科大学図書館

2008年(平成20年)4月1日発行

神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号(〒658-8558)
TEL(078)441-7512 FAX(078)435-2080
URL <http://www.kobepharm-u.ac.jp/library>